

## とある理髪店と写真

写真は昨年2月18日にレポートした「と●ある HAIR」の看板が懸った理髪店前だ。なかなか洒落た外観のお店だが、注目したいのが入口前の花と「芝生」だ。季節ごとに花が植えかえられ、道行く人を和ませている。東山通りは道路が拡幅されてから、なんだか味気ない通りになったので、潤いを感じさせてくれる一角だ。

前から気になっていたのが、面白いかたちで伸びている「芝生」だ。今回思いきって、散髪の途中に、この「芝生」のようなものについて聞いてみた。ご主人もはっきり分からないという。ずいぶん前に足助の街で買ったものが、こんなに大きくなったようだ。それにしても、ベテランプロ理髪師らしく綺麗に「散髪」してある。



理髪店のご主人は、私と違って「多趣味」の人である。30 数年にわたり通い続け、散髪のときの話の端々から、多くのためになる、幅広い「情報」を聞いてきた。ご主人だけでなく、奥さんからの生活に根差した足もと「情報」も貴重だ。東山通りの変貌、とりわけ商店など生活の移り変わり。とにかく月に1回ほど散髪に行くのが楽しみだ。ご主人と奥さんのどちらに散髪してもらうかは、そのときの「運」である。散髪のときに話す話題も変わってくる。

なんだか散髪には、幼い頃から「思い出」がある。「頭でっかち」であり、散髪してもらうとき、いつも緊張していた。緊張を和らげるために、お店の人によく話しかけたものだ。これが今でも続いているのだろうか。

散髪で忘れられないのが、大阪で浪人・大学院時代、散髪代にも困っていた頃のこと。私の髪が「剛毛」なので、業界コンテストの「練習」に好都合とのことで、その役回りを引き受けた。散髪代が無料、しかも練習後に時々ご馳走してもらうこともあり、「金欠」の身には、大助かりだった。

「と●ある HAIR」は外観だけでなく、店内もセンスのよい花や写真が飾ってある。写真は店内に飾ってあったもので、ご主人が東京・北千住で撮ったという。愛用の iPad で撮らせてもらったが、当然ながら本物はさらに美しい。北千住の街はよく歩いたが、こんな風景は簡単に撮れるものではない。撮影場所など「とある」わけを聞かせてもらった。



(2016年10月23日)